

2024年度 JST さくらサイエンスプログラム受け入れ報告

勝又 美穂子

グローバルD&I推進室 准教授

2023年11月14日（木）～12月4日（水）の21日間、JST さくらサイエンスプログラムにより海外の学生及び研究者8名を当研究所に受け入れました。今回はアクラ工科大学（ガーナ）から2名、アレキサンドリア大学（エジプト）から1名、モンクット王トンブリ工科大学（タイ）から1名、清華大学（中国）から1名、上海交通大学（中国）から1名、それぞれ学生を、そしてベトナム科学技術アカデミー（ベトナム）からは2名の若手研究者を受け入れました。接合研では、近藤・梅田研究室、麻研究室、阿部研究室が受け入れ、研究指導及び協働研究を行いました。

各参加者は事前に受け入れ研究室の指導教員と連絡を取り、当研究所滞在中に実施する組織観察や実験に向け、サンプルの準備などを行った上で渡航しました。

活動開始初日はオリエンテーションを開催し、滞在中のスケジュール確認や参加者へ学内施設及び学食の紹介などを行いました。この施設案内には当研究所の学生もボランティアで支援してくれました。また別日には当研究所の設備紹介を行い、

今回各自が利用する以外の機材についても勉強の機会を提供しました。見学いただいた設備は、FSW機、レーザーアディティブマニファクチャリングに関する機材、組織観察関係の機材等です。

三週間の滞在中は、それぞれの研究室で研究スケジュールを計画頂き、適宜実験や分析などを行いました。参加者は滞在期間中、各配属先の研究室の学生や研究者からの指導をうけつつ、交流を深めました。さくらサイエンスプログラムの受け入れを通して当研究所の学生や若手教員も海外学生や研究者との交流を通して研究以外の点においても知見を増やすことができました。

滞在最終日となった12月3日（火）には、参加者8名より、滞在中に行った研究活動のまとめと得られた成果についての合同最終報告会を開催しました。受け入れ研究室の教員や学生、職員も参加し、研究成果を聴きました。参加者からは、接合研での経験、日本での滞在経験は人生を変える大きな刺激になったとのコメントもあり、当研究所としても今後の更なる研究交流に発展することを期待しています。



さくらサイエンスプログラム最終報告会を終えて